

第一朗読：イザヤの預言（イザヤ 58・7-10）；あなたの光は曙のように射し出る

答唱詩編：（詩編 112・4、6）；しあわせな人神の恵みを受け、その喜びに生きる人。

第二朗読：使徒パウロのコリントの教会への手紙（一コリント 2・1-5）；わたしは、十字架につけられたキリストの秘められた計画を宣べ伝えた

アレルヤ唱：（ヨハネ 8・12b）；わたしは世の光、わたしに従う人はいのちの光を持っている。

福音朗読：マタイによる福音（マタイ 5・13-16）；あなたがたは世の光である

今日の福音は山上の垂訓と呼ばれる個所で、真福八端と呼ばれる 8 つの幸いを弟子たちに述べられた後のイエスのお話です。「あなたがたは地の塩である。」「あなたがたは世の光である。」弟子たちにイエスが言われた言葉です。そうなりなさいと言っているのではなく、あなたたちは地の塩であり、世の光なのだ事実をそのまま述べています。つまり、天の父である神の目には無条件にすべての人が役に立つ「塩」であり、みんなを照らす「光」となっているのです。今日の福音からわたしたちはすでにそうされているものだという事をあらためて認識し、歩んでいくように求められているのではないかと思います。

塩はすべてのものに味をつけるものです。適度な量であれば体にとって良いものとなります。塩が食べ物に味をつけるように、すべての人に神から与えられた塩味を付け、どんな人間にも価値があることを示しなさいと言われていたのです。イエスの弟子として、隣人の価値を見出しなさいということです。つまりわたしたち自身がイエスの教えを実践し伝える者とならなければならないということです。そしてわたしたち自身がイエスの教えを生きていないなら何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけなのです。

イエスの教えを実践する生き方とは何でしょうか。働けない人や体の不自由な人が世の中にはいるでしょう。他人と比べて頭の回転が遅い人や手のさばきが遅い人もいます。世の中ではできる人のほうが重宝されたり、尊敬されたりします。社会の中であまり必要とされず、良い扱いをされない人々に価値があることをわたしたちが見出すことが大切なことです。いくつかの例を出しましょう。病気の人の世話をする。貧しい人のために行動する。苦しんでいる人に寄り添う。困っている人の話を聞く。外国から来て困っている人がいたら、話を聞いて手を差し伸べる。これらはわたしたちが地の塩となっているあかしです。

世の光も同じです。イエスご自身が世の光であり、その光を受けてわたしたちも光り輝くのです。福音を生きることによって光り輝くのです。福音を生きること、イエスが教えられたことを生きること、これは人々には立派な行いと映るでしょう。そしてそれはとりもなおさず、天の父の素晴らしさを示すことになります。わたしたちが善い行いを人々に示すことによって、イエスの光を指し示すことになり、天の父をあがめるようになってくれるのです。

パウロが第二朗読で言っている言葉は、わたしたちがキリストをあかしするときどう考えればいいのか語られています。「わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、“霊”と力の証明によるものでした。それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。」わたしたちが信じるのは人の知恵によるのではないということです。わたしたちはすべて神の力によって信じるようにされているのです。

わたしたちも、地の塩として、また世の光として人々にキリストをあかししていくことができるように祈り求めてまいりましょう。